

1997年度堀内基金奨励賞の受賞者決まる

受賞者：川村 宏（東北大学理学部大気海洋変動観測研究センター）

業績：衛星画像データのアルゴリズムの開発とそれを利用した海洋や大気に関する広範な共同研究の推進

選考理由：川村宏氏は、海面境界層過程に携わる研究者として、海洋の風波の詳細な運動学的構造とそれに接する大気境界層の構造を実験的手法を用いて解明してきたが、その一方で大気海洋相互作用の研究に衛星リモートセンシングが極めて重要であるとの認識に立ち、わが国における「衛星海洋学」の草分けとしての活動を展開してきた。

川村氏とそのグループは、1988年から東北大学にNOAA衛星データの直接受信を可能とする設備を導入し、画像資料を常時取得し保管するとともに、種々の応用アルゴリズムの開発、海洋研究への利用を行ってきた。これに加え、これらのデータを広く一般に公開するシステムの開発も、東北大学大型計算機センターと共同で行ってきた。その努力により、日本全域をカバーするNOAAの可視・赤外の幾何補正済み画像を、JAIDASなるデータベースとして東北大学大型計算機センターからオンライン公開することが可能になった。これには年間1万件にも及ぶアクセスがあり、衛星画像データの需要の大きさを物語っている。この状況のもとで、海洋や大気（大気海洋相互作用を含む）を専門とする研究者と川村氏との連携のもと衛星画像データを利用した共同研究が幅広く行われてきた。中でも、可視や赤外・マイクロ波画像データによる気塊追跡を用いた「ヤマセ」に関する最近の研究は特筆されるものである。

さらに川村氏は、わが国の地球環境観測衛星ADEOS（みどり）に搭載された海面色・海面温度を測るOCTSプロジェクトに関する研究チームのリーダーとして、その推進に貢献してきた。

衛星画像データの多面的利用とそれに基づく広範な共同研究の実施は、川村氏を中心とした研究グループの努力によるところが大きく、個々の研究論文の枠を越えて高く評価されるものである。

以上の理由により、日本気象学会は川村宏氏に1997年度の堀内基金奨励賞を贈呈するものである。

受賞者：神沢 博（国立環境研究所）

業績：地球環境観測衛星ADEOS「みどり」のILAS（改良型大気周縁赤外分光計）ミッションにおける検証評価実験の推進

選考理由：神沢博氏は、国立環境研究所において笹野泰弘氏をリーダーとする衛星観測プロジェクトチームの一員として、ADEOS衛星、特に中層大気の微量気体成分の観測に係るILAS（改良型大気周縁赤外分光計）プロジェクトの推進において重要な役割を果たしてきた。とりわけ、ILASデータの検証実験計画の担当者として国内外の研究者グループを組織し、検証実験実施計画のとりまとめなどの仕事を行ってきた。

平成9年の2月と3月に、スウェーデンのキルナにおいて実施された大気球検証実験キャンペーンは、世界7か国から合計16チーム、延べ人数約100名にのぼる研究者・技術者が2か月にわたって参加し、各種センサーが搭載された大気球約20機、小気球約60機を放球するという大規模な観測実験であったが、神沢氏はその統括責任者として厳寒の気象条件のもとでの困難を克服して同キャンペーンを成功に導いた。

ILASプロジェクトの意義は、地球環境問題の中心的課題であるオゾンをはじめ中層大気における微量気体成分の地球規模での高分解能観測を実施するという本来の目的を越えて、わが国における初めての自力観測にある。神沢氏はいち早くこの観測の重要性を認識し、検証実験計画作成の過程においても、単にILAS観測データの検証に留まることなく、科学的な見地から、近年注目されている北半球の成層圏オゾン層破壊の実態解明に向けて、ILASデータを補完するための観測実験を組織した。これによっではじめて、ILASミッションの科学的価値は飛躍的に増大した。神沢氏の仕事は、今後ますます増加する大型プロジェクト研究を効果的に推進するための指針を与えるものである。

以上の理由をもって、日本気象学会は神沢博氏に1997年度の堀内基金奨励賞を贈呈するものである。